

「平成 29 年度特別支援教育センター研究成果報告会」

岐阜大学教育学部附属特別支援教育センター研修室において「平成 29 年度特別支援教育センター研究成果報告会」が開催され、33 名の参加者を得ました。

特別支援教育センター年報第 25 号に掲載された実践論文の中から、2 つの研究についての発表がありました。

研究発表 1 は、放課後等ディサービスあい・すまいる代表の武市絵梨先生が「放課後等ディサービスにおける役割と課題ー放課後等ディサービスあい・すまいるの取り組みー」について、事業所全体の療育支援の方針と内容、事例としてスタッフ間で共通理解しながら、支援した行動面の困難さがみられた A 児への実践について発表していただきました。

研究発表 2 は、北方町立北方小学校教諭の大竹秀典先生が、昨年度まで勤めていた岐阜大学教育学部附属小学校養護学級の生活単元学習の実践研究である「仲間とかかわることの心地よさを感じながら豊かな生活を創り出す児童の育成ー『人・もの・こと』によりよくかかわりながら、自分から思いや願いの具現に向けて取り組む姿を願ってー」について、先生が担任したクラスの「仲間へプレゼントするマーブリングの模様をつけたカップづくり」の授業実践を中心に発表していただきました。

参加された保護者や学校教育関係者、障害者支援施設関係者から質問や意見をいただき活発な意見交流ができました。

最後に、岐阜県教育委員会特別支援教育課課長補佐棚橋耕次先生からご助言いただき、学校教育の側が放課後等ディサービスから学ぶこともあり、今後、教育と福祉のさらなる連携・協働が重要になってくることと、附属小学校養護学級の生活単元学習を通して「仲間とかかわる力を育む」ことをめざしたカリキュラムに系統性があること、子どもの実態を把握する観点が明確化されているとのコメントをいただきました。

